

松波中学校 令和7年度学校評価中間報告 【地域を担い、未来を生きる力を備えた生徒の育成】 《令和6年度後期との比較》※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【安全・安心に学べる学校】										
具体的な取組		アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア いじめ・不登校のない学校づくりの推進 ・生徒会を中心に主体的な活動によるいじめのない学校づくり ・生徒理解の会・アンケート(毎月)、Q-U調査(年2回)の実施と早期対応 イ 安全教育の充実 ・危機管理マニュアルの共通理解・改善 ・計画的な避難訓練等防災教育の実施 ・安全点検(毎月15日)の確実な実施と早期改善 ウ 道德教育の充実 ・特別の教科道德を要とした道德教育の推進 ・指導方法の改善と評価の工夫 エ 体力の向上 ・「体力アップ1校1プラン」の実施(各個人の目標を持たせる) オ 学校給食を核とした「食育」の推進 ・食教育の実践及び〇〇給食の実施 ・食物アレルギーへの組織的な対応	生徒	学校は楽しい。	98%	➡	a	4	A ↓ A	○「学校は楽しい」と感じる生徒の割合は98%である。保護者も94%が「子どもが楽しそうに学校に行っている」と感じている。 →生徒会活動等で計画的に充実した取組を行うことができたからではないか。 △「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は69%と減った。→お互いの良さだけでなく、自分の良さに気づいていない生徒が多いのではないかな。	・生徒会活動や各種行事等で、生徒中心の活動を継続的に実施し、振り返り等で、互いのよさや頑張りを認める活動を行っていく。 ・関わっている全教員がそれぞれ、生徒のがんばりや当たり前でもできていることをその場で褒めて認めていく。 ・グループエンカウンター等、SCと連携しながら、お互いや自分のよさを認め合う活動を計画的に取り入れていく。	
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	94%	➡	a	4				
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4				
	生徒	自分にはよいところがある。	69%	↓	d	1		○「学校のきまりを守って、生活している」と感じる生徒の割合は100%になり、学校のきまりを理解し、安全に生活しようとしている。		
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	98%	➡	a	4				
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	100%	➡	a	4				
	教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4		○保護者「学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。」が100%となった。 →計画的に、いじめの未然防止に努めることができたからではないか。(生徒アンケート、保護者アンケート、個人面談、SCとの連携)		
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	100%	➡	a	4				
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	100%	↑	a	4				
		先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	98%	➡	a	4				
	教員	学校は、生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4				
		学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	100%	➡	a	4				
	保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	100%	➡	a	4				○避難訓練を計画的に行い、その際に危機管理マニュアルを定期的に確認することができた。
	教員	学校は、定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	100%	↑	a	4				
<div>＜改善策＞ ○生徒中心の活動・相互評価場面 ○自己肯定感を高める取組 ○SCと連携した取組</div>										

＜視点2＞【確かな学びを保障する学校】												
具体的な取組	アンケート結果						自己評価	成果と課題及び分析				
ア 松波中スタンダードの実践と改善 ・計画に沿った確実な指導と、実践に基づいた計画への改善 イ 学力向上ロードマップ・プランに基づく学力向上の取組推進 ・対話的で深い学びへの授業改善 ・シンプルな学校研究の推進 ・家庭学習の量と質の改善 ・家庭と連携した基本的な生活習慣への改善 ウ 授業力向上の取組推進 ・1人年2回以上の公開授業及び研究授業の実践 ・指導技術の系統化 ・ICT機器の効果的活用 エ 海洋教育の推進 ・「海洋教育推進事業」の計画的な実施 ・SDGsを意識した体験活動の推進 オ 特別支援教育の推進 ・専門相談員等の活用 ・校内支援委員会の定期的開催	生徒	授業の内容はよくわかる。	96%	➡	a	4	C ↓ B	○96%の生徒が「授業の内容はよくわかる」と回答した。 △「お子さんは、授業の内容がよくわかると感じている」と回答した保護者の割合が63%となった。 →生徒と保護者の意見に大きな差がある。保護者は、「授業がわかる」ということをテストの点数で判断していると思われる。また、生徒は、授業ではわかったと感じていても、それを復習して知識として身につける家庭学習等を繰り返し取り組んでいく必要があると思われる。	・コンテストなどの取組で、苦手な生徒に対して、個別指導を行う等、教科担当者と担任が連携して、コンテストに向けた取り組みを行う。 ・授業で学んだことを身につけさせるために課題を必ず提出させる。 ・保護者面談等での説明を行う。			
		失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	96%	⬆	a	4						
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	63%	➡	d	1						
	教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	90%	⬇	a	4						
		私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	90%	⬇	a	4						
	生徒	自分の考えを根拠や理由をつけて伝えた。	84%	—	b	3						
	教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4						
	生徒	授業の課題に対して、意欲的に取り組むことができる。	90%	➡	a	4						
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。 (1年60分、2年70分、3年80分)	59%	➡	d	1						
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	44%	➡	d	1						
教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	⬆	a	4							
生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	80%	➡	b	3							
保護者	お子さんは、生活リズムを意識して過ごしていますか。	73%	⬆	c	2							
教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	91%	➡	a	4							
生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。 (A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	37%	➡	d	1							
保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	54%	➡	d	1							
教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	91%	➡	a	4							
生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	96%	➡	a	4							
生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めてくれる。	96%	➡	a	4							
教員	生徒ががんばったことをほめたり、認めてくれる。	100%	➡	a	4							
保護者	学校は、お子さんががんばったことをほめたり、認めてくれていると思いますか。	94%	➡	a	4							
									<div>＜改善策＞ ○基礎基本を定着させる取組 ○個別指導の充実 ○保護者への説明の機会</div>			
									△「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。」と回答した生徒の割合が6%上昇したが、59%と低い結果であった。 △「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。」と回答した保護者の割合が5%上昇したが、依然44%と低い結果であった。 →家庭学習への取り組み方への指導の成果が少しずつ見られているが、引き続き指導が必要である。 ○「お子さんは、生活リズムを意識して過ごしていますか。」と回答した保護者の割合が73%と前回に比べてかなり上昇した。 △生徒がインターネット(スマホ)を使用している時間が長いという結果であった。 →家庭学習に取り組む時間、インターネットを使用する時間、五定点を守って生活すること、テストの成績とは密接な関係がある。自律的な家庭生活の改善に向けた指導を、家庭と連携しながら引き続き行っていく必要がある。	・家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、生活時間の調整、インターネットとの上手なつき合い方について、自己指導能力の育成を意識して保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。 ・非行被害防止講座で決めた「インターネットの家庭でのルール」を見直しをしながら各家庭で守っていけるように、家庭と連携しながら引き続き指導していく。さらに、学校で取り組んだ内容を学年だより等で紹介し、保護者とも共有していく。		
									<div>＜改善策＞ ○家庭学習の量と質の改善 ○家庭と連携した基本的な生活習慣への改善 ○インターネットとの上手なつき合い方についての継続的な指導（家庭との連携）</div>			

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】									
具体的な取組		アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析		改善策
ア 業務改善の取組推進 ・校務分掌の明確化、平準化と効率的な取組への改善 ・事案決定システムの改善 ・定時退校日（毎週水曜日） ・最終退校時刻（午後7時） イ 若手早期育成プログラムの実施 ・計画的な実施と内容の改善 ウ 服務規律の向上に向けた取組推進 ・日常的な服務規律に関する具体的な指導と徹底	教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	B ↓ A	△「私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。」と回答した教職員の割合が、73%となった。 →新しい業務を担当する職員が増え、業務を知るところから始まり、効率化というところまでいっていないのではないか。	・見通しをもって業務に取り組めるように早めの提案を呼びかける。 <div>＜改善策＞ ○業務の効率化 ○定時退校日や退校目標時刻の明確化</div>
	教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	91%	➡	a	4			
	教員	校内・校外の研修に積極的に参加し、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	➡	a	4			
	教員	私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。	73%	➡	c	2			

3.5

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】												
具体的な取組		アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析		改善策		
ア「地域学習」の充実 ・公民館等の地域と連携した体験活動の推進 ・まちの先生を活用した教育活動の企画と実施 イ 家庭や地域とのコミュニケーションの促進 ・定期的な学校公開 ・学校評価、学校関係者評価の実施と活用の充実 ・学校だより等の配布、HPIによる情報発信	生徒	家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	100%	➡	a	4	B ↓ A	○「お子さんは、すすんであいさつができていますか。」と回答した保護者の割合が88%と上昇した。 →家庭でもすすんであいさつする生徒がふえたのではないかな。	・生徒会挨拶運動やグッドマナーキャンペーンなどを実施する際は、挨拶の意義についても引き続き指導していく。 ・すすんで挨拶できている生徒を全職員で認めて、褒めていく。 ・海洋学習だけでなく、様々な体験学習を行う前に、地域学習としての意識づけや意義などを指導してから取り組むだけでなく、事後指導も確実に行っていく必要がある。			
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	88%	⬆	b	3						
	生徒	地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいる。	88%	➡	b	3						
		地域の出来事に関心がある。	88%	➡	b	3						
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	94%	➡	a	4						
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	96%	➡	a	4						
	教員	地域の教材・人材を計画的に授業に取り入れている。（予定である）	100%	➡	a	4		○保護者は、「学校からの各種便りやホームページでの情報発信は十分である」と感じている。				
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていますか。	98%	➡	a	4						
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	98%	➡	a	4						
	教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	➡	a	4						
									＜改善策＞ ○挨拶の意義についての指導 ○体験活動での地域学習の意識付け			

3.7

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞

① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒a

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒b

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒c

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒d

② ①の4段階の評価を、a＝4 b＝3 c＝2 d＝1とし、平均を出す

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う

平均が3.5以上 ⇒A

平均が3.0～3.4 ⇒B

平均が2.3～2.9 ⇒C

平均が2.3未満 ⇒D

➡ 5%以上増えている

⬆ 10%以上増えている

⬇ 5%以上減っている

⬇ 10%以上減っている

・勉強方法や部活動など、生活リズムも変わり、わからないこと戸惑うことも多々あるようですが、ひとつひとつ取り組んで身につけて行く子どもから、親の私自身も学ぶことが沢山あります。良くないことは伝えてほしいですし、良かったことも先生方に言葉やノートでも伝えてもらったり、それが娘の力にも繋がっているようです。いつもありがとうございます！

・子供がお世話になっております。ありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。

・学校が楽しいと言って、新しく出来た友達の話してくれます。これも環境作りをしてくれている先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

【学校関係者委員会（8月26日）からのご意見】

・定期的に危機管理マニュアルを確認していると思うが、引き渡し訓練をする際、引き渡しをするタイミングを考えてほしい。先日の豪雨のときに、車を運転していて、道路がとても危ない状態になっていてとても怖い思いをした。保護者が迎えに来るのが危険な場合は、しばらく学校にひきとめるという方法も考えてほしい。

・学校評価を毎年、細かく評価しているが、あまり評価が変わらない。そんな中で、視点2 家庭学習についての生徒と保護者のアンケート結果が少し上がったのが評価できる。わずか5%や6%かもしれないが、昨年度から行ってきた取組の成果が少しずつ表れてきた結果だと思う。先生方にも成果が少しずつみられるので引き続き頑張ってもらいたいと伝えてほしい。

・インターネットの使用時間については、オーストラリアや愛知県のように法令で定めて、国や自治体全体で取り組んでいく必要があると思う。家庭のルールの中に、誹謗中傷はしないなどの約束はあると思うが、使い方のルールもあっていいのかなと思う。

・保護者の交通指導（挨拶運動）の取組は、地域に出て行う取り組みとしてよいと思うので、引き続き学校とPTAが協力して取り組んでほしい。その際は、学校を出てすぐの交差点の横断歩道は危ないので、旗で車を止めるなどして、子どもたちの安全確保に努めてほしい。ドライバーの方が、止まればいいのか、先に行けばいいのか迷うときがあるという話を聞いたことがある。

・タブレット端末の授業が増えてくると思うが、紙に書く活動は、減ってきているのか？
→【回答】授業後の感想をフォームでそれぞれが時間のあるときに回答したり、避難訓練や行事の感想をタブレットシートで入力したりするなど、様々な場面でタブレット端末を有効活用している。しかし、授業中にノートに書く活動をしなくなったわけではない。書く活動も大切にしながら、有効活用できる場面で、タブレット端末を活用していきたい。